
ぶるすぱっ！？～機動戦士編～

緋色由衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶるすぱっ！？！機動戦士編

【Nコード】

N6401K

【作者名】

緋色由衣

【あらすじ】

世界中で大人気ロボットアクションゲーム『アブソリューツ』。

それを利用して世界の破滅をねらうヘリオポリス九柱神。

それに立ち向かうカスミ・キサラギ、ユイ・ハガクレ、ウエハ・クルスの3人の物語。

この作品は作者がモバゲータウンにて連載している『ぶるすぱっ！』のキャラクターや設定を流用しつつも全く新しくリファインした作品です。

故に『ぶるすぱっ！』との直接的な繋がりはありません。

ですがモバゲータウンでは決して見れないもうひとつの『ぶるすぱっ！』をどうぞ！

今作品は性転換を含みます。
ご注意下さい。

ぶるるーぐ(前書き)

いやはや始まってしまいました。

作者の処女作にして現在進行形のぶるすぱっ！を全く新しい形で描きたくなったので書いてみました。

今作品はロボットアクション物にする予定です。

そしてぶるすぱっ！ですのでもちろん性転換も入ります

では、全く新しいぶるすぱっ！をどうぞ！

ぶるるーぐ

西暦20XX年。

地球は、ひそかに壊滅の危機を迎えていた。

世界規模で大人気の体験型ロボットアクションゲーム『アブソリューツ』。

コックピット型コントローラーで自分だけのオリジナル機体を設計し、カスタマイズしてインターネットを介して世界中の相手と対戦できる本格的ロボットアクションゲームである。

そのゲームは世界中のゲームセンターに配備されており、ゲームセンターによってはすべてのゲーム筐体がアブソリューツだけという場所も珍しくない。

そんなゲームに目を付けたとある組織があった。

彼らはヘリオポリス九柱神と名のりすべてのコンピューターに、一般ユーザーには気づけない程度に、だが確実にウィルスを浸食させていった。

そして彼らはユーザー達の作った機体を現実世界に呼び出す技術を開発したのだった。

ぶろろーぐ（後書き）

ご指摘、感想、レビューお待ちしております！

せめて、ニンゲンらしく（生活してほしい）（前書き）

今回はゆる〜いギャグしかありません。

せめて、ニンゲンらしく(生活してほしい)

世界は1000の区域で区切られている。

1番区域が最も経済的に豊かであり、治安も良い。

そして1000番区域がその逆である。

1000番区域は山なりになっており、下にいくほどより貧しくなっていく。

そしてその最も下に民宿、傾き荘(斜度60°)がある。

そこに、貧しくもたくましく生きている3人の男の娘がいた。

1人目はカスミ・キサラギ(15)。

散髪に行く金すらなく伸び放題な髪は腰まで届くほど長く、愛刀、姫百合を携える姿は正に戦乙女(注 男)である。

2人目はユイ・ハガクレ(12)。

金髪のツインテールをたなびかせ、猫科の動物を連想させる大きな瞳。そして数々の愛銃を使う様はまさしく天使の如し。

3人目はウエハ・クルス(16)。

茶髪セミショートがおしとやかな雰囲気とあいまって和やかなお姉さんといった雰囲気をかもしだしている(男だけ)。

愛用の籠手である、白き英雄カルキを装着し、瞑想しているその姿は鋼鉄の処女（男以下略）と形容するにふさわしい。

そんな3人はこれから待ち受ける過酷な運命など知らずにたくましく生きていた。

カスミ達の日常は、ゴミ漁りから始まる。

カスミ「今日もいろいろ大量だなあ。

腐りかけの牛肉、200gも見つけたよ。」

お腹壊しますよ？

ユイ「こっちは瓶に溜まったジュースをコツコツ集めたら5合瓶いっぱいだったよ！

…いろんなジュース混ぜっちゃったケド。」

毒の沼地の色してますね。

ウエハ「みんな贅沢な食べ方してますね！。ミカンの皮やピーナッツの殻を残すなんて。」

もはや人間の食べ物じゃありません。

カスミ「今日のゴミ漁り終了ー！」

なんか某生徒会っぽく終わらした！

…その時。

せめて、ニンゲンらしく(生活してほしい)(後書き)

ご指摘、感想、レビューお待ちしております。

たたかいはじまり(前書き)

遅くなりました。

すみません！

今回少しでも話が動きます！

たたかいはじまり

ビュオオオオオッ！！！！

あたり一面ただの荒地となった元・傾き荘（現在斜度0°）跡。

そこに何機ものロボットが降り立った。

降り立った機体は、デザインには全く統一感がなく、共通点といったら、どれも人型であることと、戦う事を目的としたものである事くらいだった。

そんなとんでもない状況にて場違い過ぎる悲鳴が3つばかり上がっていた。

カスミ「じゃあああああ！！！！」

食料が！

僕たちの食料がああああ！！！！」

ユイ「ボクの愛しの梅干しの種ちゃんも蒸発しちゃったよおおお！！！！」

ウエハ「あは…」。

あははははっ…。

（捨ててあったのを拾ってきた）使用済みの紅茶のティーパックが

…。
まだ、84回しか使ってなかったのに…。」

賢明なる読者の方々から

なんで生きてんの!?

とか、

意地汚すぎやる!

とかゆうツツコミが入るよーな気もするが、とりあえずスルーして
いて欲しい(いちいちツツコミいれてたらキリがない)。

カスミ・ユイ・ウエハ『おのれら許すまじ!!!』

食べ物への恨みは怖い。

これは古今東西万国共通の認識であろう。

そしてそれがゾンビ以上の意地汚さを持つカスミ達ならなおのこと。

カスミ「シャアアアアツ!!!」

カスミは愛刀、姫百合(切れ味、ひのきの棒並み。よーするに皆無)
を振るい(力のみで)次々にロボット達を撃破していく。

ユイ「ふかーっ!」

ユイは愛用の銃コレクション(残弾0)で(魔力&気合いで代用し
て)敵を撃ちやはり撃墜していく。

ウエハ「ちえあぁー！」

最後になんともなく可愛らしい雄叫びをあげているウエハは、愛用のナックルである白き英雄カルキ（純なめし皮製であり、むしろ威力）をはめ、（魔力とおもいきり力技で）敵を撃破していった。
15分後…。

少なく見積もっても30機はいたロボット達は完全にスクラップになっっていた。

ユイ「ううっ…」。

ボク達のゴハンが…」。

ユイがひたすら落ち込んでいると、カスミとウエハが声をかけた。

カスミ「ユイ！」

落ち込んでいないでこっちを手伝って！」

ユイ「にゅ？」

手伝って何を？」

ウエハ「さっき私達が倒したロボット達の部品を金物屋に売るのですよ。」

ころんでもただでは起きないってどうか、なんというか…」。

そんなおり、先ほど倒したロボット達（大きさ平均20m前後）とはくらべものにならないくらい巨大なロボットが降りたのだった。

たたかいはじまり(後書き)

ご指摘、感想、レビューお待ちしております。

限界駆動融合（リミット・オーバー・フュージョン）（前書き）

遅くなりました。

すみません。

限界駆動融合（リミット・オーバー・フュージョン）

降り立ったその巨大なロボットから、声が聞こえてきた。

巨大ロボ「その人ー！

そんなところにいると危ないよー！

早く非難しなさい！」

カスミ達はかなり驚いた。

なにしろそれは女の子の声だったからだ。

この世界において女性はかなり減少傾向にあり、現在の男女比は9
6：4ほどまでになっているのだ。

故に、女性は常に男性から狙われており、身を隠すのが当然なのだ。

そんな存在がこの、最も治安の悪い第100番区域に自らやって来た
たというのだ。

これはもう、カモがネギと鍋と酒を持ってやってくるに等しい所業
である。

カスミ達にしてみれば、その女の子にこそさっさと非難してほしい
のだが、女の子の方はそんなん知ったことじゃないとばかりにしき
りにカスミ達に非難を呼びかけていた。

その時、カスミ達が倒したはずのロボット達が急に動き始めたのだ
った。

女の子「ヤバイ…」。

あいつら限界駆動融合する気だ…。

リミット・オーバー・フュージョン

しかもこの数…。

こりゃ、私の手には負えないな…。」

その女の子は素早く状況判断を済ませると、再びカスミ達に話しかけた。

女の子「その少女達！」

しかしカスミ達は反応しない。

女の子「無視すんなー！！！」

どうやらこの女の子はわりと短気なようでキレだした。

そこまできて、ようやくカスミ達は自分達の事を呼んでいるらしいと気が付いた

カスミ達は男なので少女という言葉に反応しなかったのだが、この女の子にそんな事分かるわけがない。女の子「いい？

一回しか言わないからよく聞きなさい！

あいつらは自己修復機能があるから核となる部品を破壊しないとエネルギーのある限り無限に復活するの。

でもあいつらは、あなた達を脅威と判断したらしくて、その機能を捨ててただの殺戮兵器になったの。

限界を超えた駆動を可能にする、限界駆動融合をあいつらはしたのよ。

それは、自分の寿命と引き換えに、圧倒的な力を手に入れる悪魔の所業。

30分ほどであいつらは動かなくなるけど、その30分の間は私にはどうしようもない。

だから、私と一緒に非難して!」

カスミ達は無言で頷き、非難使用とした。

だが…その時…!

女の子「がつ!?!」

後ろから、合体したロボットが女の子の乗っていた機体を攻撃した。

不意打ちを受け、倒れる女の子。

ウエハ「今のはかなりマズイ倒れ方しました…。

…中の女の子は無事でしょうか…。」

ユイ「あの子をなんとかして助けないと…!」

カスミ「彼女は僕達を助けようとしてくれた。

だから僕達が助けるのが礼儀ってもんだからね。」

カスミ達は下心なく助けようとしてくれた女の子を、命を賭してたすけるつもりでいた。

カスミ・ユイ・ウエハ（あの子を助けるだけの力が欲しい!）

今、カスミ達の心は1つになった。

その瞬間、カスミ達はまばゆいばかりの虹色の光に包まれた。

限界駆動融合(リミット・オーバー・フュージョン)(後書き)

次回、ついにロボットバトル!

機装鎧化（アーマード・メタモルフュージョン）（前書き）

遅くなりました。

しかし内容は低クオリティ…。

救いようがないですね…。

すみません…。

機装鎧化（アーマード・メタモルフュージョン）

（この地を守りたい！）

（あの子を助けたい！）

（力が…力が欲しい！）

カスミ、ユイ、ウエハの3人の心は今、ひとつとなり、虹色の光が駆け巡る。

その光がカスミ達の傷を癒やし、力を増幅させていく。

キンツ…。

何かが澄み渡る…。

そんな音がした。

気が付けばカスミ達はそれぞれロボットのコックピットと思わじき場所にいた。

カスミ「ここは…いつたい…。」

そのコックピットは、世界中で超絶的ブームを誇るアブソリューツのコックピットに酷似していたが、そのあまりに貧乏さ故にアブソリューツをしたことがないカスミ達には知るよしもない。

だが、これだけは解った。

ユイ「これで、あいつらを倒せる！」

ウエハ「ええ！」

見せてあげましょう！

私たちの力！」

カスミ「行くよ2人とも！」

カスミ・ユイ・ウエハ「GO！」

今、三機の巨人が閃光のように鋭く跳躍した。

ユイ「ターゲットへの照準、北へ2度修正。

風による照準誤差0.02度以下。

ほんじゃあ…。

発射あー！！！！」

ユイにはこの機体の事なんか何も知らない。

だがこの機体がユイと同じく銃撃戦を得意としているようだという事と、体がもうひとつ増えたかのような一体感と共に頭ではなく、心と体で理解していた。

ユイ「てりゃりゃりゃりゃりゃー!!!」

ユイは敵の間接部を正確に撃ち抜いていく。

この銃撃では一撃で敵を無力化する事はできない。

だからサポートにまわり敵の動きを制限する作戦にしたのだ。

ウエハ「理屈はわかりませんが、私の思った通りに動いてくれるみたいですね。」

この機体もウエハと同じく格闘戦を想定して造られたようだ。

ウエハ「この機体はそのまま私の体の延長戦と見て良いでしょうね。

ならば！」

ウエハの機体は敵の機体の腹（と思わしき場所）に正拳突きをぶちかました。

敵メカ「!?!」

一瞬、敵メカは動きを止める。

ウエハはその瞬間を見逃さない。

さらに相手の着いた膝を踏み台にし、顔に回し膝蹴りを放つ。

ここで反撃を受けそうになるがユイの正確な射撃サポートでそこはクリア。

さらに追撃で相手を蹴りで打ち上げる。

ウエハ「今ですカスミ!!!」

カスミは今までずっと目をつむり、深く瞑想して心を落ち着けていた。

そう、全てはこの一撃の為に!

カスミ(僕と同じく剣術を得意とするこの機体…。

そしてこの刀からはとてつもない力強さを感じる…。

この剣…この剣なら使える!

僕の技に耐えてくれる!!!)

全てのスラスタをフル稼働。

空中に打ち上げられた上、ダメージでまともに身動きとれな敵メカに一閃!!!

カスミの機体の真後ろで時間差で敵メカは空中分解し、その後爆散した。

機装鎧化（アーマード・メタモルフュージョン）（後書き）

次回はキャラクター紹介と世界観説明をします。

登場人物紹介 其之一（前書き）

遅くなりました。

無駄に凝った設定考えたりしてるうちにこんな期間が開いてしまいました。

申し訳ございません。

登場人物紹介 其之一

名前 カスミ・キサラギ（如月霞）

年齢 15

身長 156

体重 45

血液型 O型

髪型 黒髪ロング

アイカラー 黒

好きなこと 猫などの可愛いものと戯れること

嫌いなこと ひとりぼっち

一人称 僕

スペルレベル 1

技能レベル

剣技能 レベル 4

槍技能 レベル 3

体術技能 レベル3

アルテミアス

カスミの愛機。

稀代の天才、宮小路十六夜が洒落のつもりで作ったプロトタイプの一機。

圧倒的な加速能力と、桁外れに厚い装甲を誇り、敵に一瞬で接近して闘う戦法を得意とする。

特筆すべきはその加速能力で、約2秒のバーニア噴射で最高速度にまで達する。

しかし、その圧倒的な加速能力の弊害として、搭乗者に最高80Gもの重力をかけてしまうので、乗り手がいなかった。

また、加速能力は高いが、その分運動性、バランスが低くなっており、回避能力は期待できない。

また、機体には成長型AIがついており、コードネームはLiliium。
um。

女性型であり、カスミのお姉さんの存在となっていく。

また、試験的にブラックボックスと化した動力源にFA^{ファミ}XSMが積んであるが詳細は不明。

以下は機体のパラメータである。

(基礎値を1000として)

武器火力	600
装甲	2000
加速力	2500
運動性	200
balancer	500
操縦性	50
白兵能力	1800
射撃能力	150
耐久力	2100
出力	3000TW
全高	16m
重量	24t

武装

ヒメユリブレード

あらゆる時代、次元、時空の全てにおいて最強といわれる3覇と呼ばれるうちの1人、剣覇ソウドの愛刀、月下美人のレプリカとして333の鍛冶職人と、3333の聖職者が10万と1000の日数を掛けて作り上げた刀の刀身。

その刀は1000のカケラに碎け、そのカケラはのちに草薙の剣やエクスカリバー、レヴァンティンなどになった。

そして、その中でも中心たる刀身部分、それが名刀姫百合である。

ただし、1000のカケラに碎け散ったせいでその力のほとんどを失っており、今現在は、使い手に合わせて大きさを変わる力と斬った相手の能力吸収以外の能力しか残っていない。ただし、一つの原子から構成されているので、決して折れる事が無い。

しかし斬れ味も全くなく、攻撃力は皆無である。

なお、カスミはその斬れ味のなさを力技で補っている。

また、のちに様々なオプシオンを装着する事が可能になり、戦力の幅が大きく広がった。

名前 ユイ・ハガクレ（葉隠由衣）

年齢 12

身長 128

体重 28

血液型 A型

髪型 金髪ツインテール

アイカラー ライトグリーン

好きなこと 新型銃の開発

嫌いなこと えっちなこと（情緒がお子様）

一人称 ボク

スペルレベル1

技能レベル

弓、銃技能 レベル4

サバイバル、トラップ技能 レベル3

体術技能 レベル3

ワルキューレ

ユイの愛機。

期待の天才、宮小路十六夜が洒落のつもりで作ったプロトタイプの
一機。

全身に多数のスラスタが搭載されており、非常に高い機動力をほこり、単機での長距離飛行も可能。

ただし、その圧倒的な機動力の代償として、極限まで軽量化しあ装甲は当たれば墜ちると言っても過言ではないほどの紙装甲となってしまう。

また、アルテミアスと同じく、搭乗者には殺人的なGが発生する欠点もそのまま残っている。

本機体は卓越した射撃能力で敵を撃破する事をコンセプトとした機体であり、射撃戦において右に出るものはそうはいない。

反面、接近戦において有効な武器を持っておらず、接近戦は苦手ではあるが、ユイの卓越した操縦技能のおかげでそれを感じさせない。

しかしその装甲の薄さゆえ被弾の多い接近戦は好むところではなく、主な戦場はやはり遠距離戦となる。

この機体にもやはりFAXSMは搭載しているが、やはり詳細は不明。

この機体のAIのコードネームはValkyrja。

AIでありながらお子様頭脳であり、ユイとのお子様コンビは周りの頭痛の種となっている。

(基本値を1000としての強さレベル)

武器火力 2100

機動力 1800

運動性 1700

装甲 450

加速力 1500

バランサー 1200

操縦性 100

白兵能力 50

射撃能力 2500

耐久力 550

出力 2980TW

全高 10m

重量 6t

武装 ラグナロク

本機唯一にして最強の武装。

データをインストールすることにより、様々な種類の弾を撃つ事が可能。

ただし、初陣の時のように何もデータがインストールされていない時はただの銃と大差ない。

データをインストールする事により非常に高い汎用性を持つがこの武装が失われた時に本機の戦力が大幅に低下するという弱点も抱えており、今後最大の改良の課題となっている。

なお、この銃は搭乗者の魔力及び精神エネルギーを使用し撃つので、使いこなすには、必然的に搭乗者に高い能力が求められる。

また、この銃は非常に重く、ワルキューレのバランサー自体が特筆すべきほど高い訳ではない事と合わさって取り回しに難があるという欠点もあるが、ユイは銃そのものの重さを位置エネルギーに変換し、とつさの方向転換に役立てるなど、臨機応変さは求められるがある程度はフォローする事は可能。

名前 ウエハ・クルス【来栖上葉】

年齢 16

身長 164

体重 48

血液型 B型

髪型 茶髪ショート

アイカラー 碧

一人称 私

好きな事 安い買い物

嫌いなこと 高い買い物

スペルレベル 1

技能レベル

体術技能 レベル 4

楯技能 レベル 3

気功技能 レベル 3
西王母せいおうぼ

ウエハの愛機。

稀代の天才宮小路十六夜が洒落のつもりで製造した一機

格闘能力に秀で、かつ3機の中で最もバランスよくまとまった機体。

能力的に中途半端と思われがちだが、特殊な歩法を用いる事で一気に敵との距離を詰めることが可能。

また、掌にエネルギー吸収能力を持ち、敵の遠距離攻撃を無効化しながら接近する事が可能。

さらに吸収したエネルギーを使ってバリアーを張り巡らしたり、気弾として打ち出して遠距離攻撃をする事も可能。

ただし、そのバリアーや気弾の強さは敵の強さに左右されやすく、やや安定しないという欠点もある。

しかし、このエネルギー吸収能力によって、アルテミアスやワルキユーレの欠点をフォローする事もできるなど、有効な機能であることには変わりはなく、本機体の強さを支える機能でもある。

だが、ほかの2機同様、殺人的なGが掛かる欠点及び操縦性の悪さは解決されていない。

なお、ご多分にもれず本機にもFAXSMは搭載されている。

AIは東王父とうおうふ

(基本を1000とした場合のスペック)

武器火力 1200

装甲 1500

加速力 1600

運動性 1550

バランサー 1200

操縦性 120

白兵能力 1500

射撃能力 1200

出力 3200TW

全高 14m

重量 12t

カルキ

西王母の唯一武器であるナツクル。

ただし、状況に応じて姿を変えることができる。

ただし、現在はその力の大半を封印されており、ナツクルの形態としてか使えない。

なお、このナツクルには個別にバーニアが付いており、殴りつける

際に威力を増大させる効果を持つ。

さらに緊急用に射出して攻撃する事もできるが、自動で戻ってくる機能は付いておらず、自分で再装着するまで使用不可になるなど、デメリットの方が大きいので、使用機会は少ない。

補足として、このナックルそのものにもエネルギー吸収能力が付いており、吸収したエネルギーで威力を上げたりする事ができる。

登場人物紹介 其之一（後書き）

ご指摘、感想、などありましたら、どうぞバンバンください。
大変励みになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6401k/>

ぶるすぱっ！？～機動戦士編～

2011年1月10日04時42分発行